

議事録兼報告書

部 長	課 長	係 長	課 員
会議等名称	令和元年度 第2回伊那市子ども・子育て審議会		
日 時	令和元年12月17日(火) 午後7:00～ 午後9:00		
場 所	市役所 多目的ホール		
欠 席 者	清水委員、飯塚委員、宮原委員、小椋委員		
議 題	第2期伊那市子ども・子育て支援事業計画の策定について その他		
議 事 内 容			
<p>出席者：委員11名 子育て支援課 課長他3名 欠席者4名</p> <p>1 開 会 副会長</p> <p>2 あいさつ 会 長 第2期伊那市子ども・子育て支援事業計画の素案について提案していただくが、今後5年間の計画についてでありとても大切な内容である。皆さんからご意見をいただきたい。</p> <p>3 協議事項 (1) 第2期伊那市子ども・子育て支援事業計画の策定について 1 計画素案の概要</p> <p><事務局> 前回の審議会において、昨年度実施した子ども子育てニーズ調査の結果を報告させていただきました。本日は、その結果をもとに児童数推移や見込み、子育てにかかわる家庭の状況、女性の就労状況や意識などの変化を分析し、各種計画との整合を図る中で令和2年度からの5か年計画として第2期伊那市子ども・子育て支援事業計画の素案を作成したところです。</p> <p>また、これまでの継続審議となっております児童減少地域の保育対策について、審議会委員等の意見を踏まえ、現行の保育園整備計画に示す休園・廃園基準に代わる位置付けとして、第3章の(5)基本方針別の施策の展開の中の項目として、子どもの発育や教育のほか・子育て支援策として目指すべき姿の骨格となる指針を記載させていただいております。</p> <p>これが、新たな基本方針となってきます。</p> <p>また、量の見込みで数量の誤りがありましたので訂正したページと、伊那市の児童数や園児数の推移を参考資料として、本日配布させていただきました。</p> <p>このあと、計画内容が多岐に亘っておりますので、計画の流れに沿い各章ごと要点について説明させていただき、ご意見を賜りたいと思います。</p> <p>その他でも触れますが、本日の審議会を踏まえ、委員からの意見にもありましたように幅広く市民の意見をお聞きすることが望ましいと考えていますので、パブリックコメントとして意見募集を</p>			

行う予定です。

それでは、本計画の説明を、小松補佐から行います。

よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

2 計画素案の骨子

<事務局> 5年前に策定したものについてご意見いただき、ワーキングチーム会議にて素案を策定した。

資料説明 ①第1章 計画の策定にあたって

<委員> 意見なし

<事務局> 資料説明 ②第2章 子供子育てにかかる現状

<委員> P6 伊那市全体の人口が書かれている。地域別の人口推移を載せることはできなのか。

<事務局> 7月1日現在の統計数値を掲載してある。前回の計画との整合性をとるため全体としてある。ご意見があれば修正等はする。

<委員> 地域別のデータがあるのでこれから伊那市の推移を考えると全体データだけでは見て取れない。地域の特徴があるため地域別のデータを入れるべきと考える。本文に入れるか添付するか何らの形で含めてもらいたい。

<委員> ここ10年で出生数は200人約30%減少している。国全体で出生数が減っているが伊那市の出生率は危機的な状態である。P5のグラフの示し方をもっと危機的な状況と分かるよう表示としたほうが良い。

<事務局> 資料説明 ③第3章 計画の基本的方向

<委員> 目標 子供と親とは最低限のスタイルであるが、地域住民との関係も必要。地域住民の笑顔がとってもらいたい。

3の(1) H29.12.21とH31.4.15の提言について市長の受理をいただいているので追加いただきたい。中山間地域の過疎化の問題がある。伊那市の中でも高遠長谷地域の過疎化が深刻であり、手良地区、富県でも減ってきている。中山間地域に若い人が住まなくなってきた。移住定住対策に力を入れているが苦戦しているのが現状。新山地区、高遠地区の方たちは人口を増やそうと一生懸命となっているが、反映されていない。

お配りする提案内容を追加いただきたいと考える。市長への提言文章の内容である。

『市の中山間地域、とりわけ過疎地域や児童数減少地域への若者の移住・定住を促進し、地域での子育てを願う、地域住民に伝えるために、小規模保育園および地域での子育て支援の充実が必要です。』

上記を文章内に入れていただくことで検討いただきたい。

<事務局> ほかの皆様からのご意見もいただきたい。内容については精査させていただきたい。

<委員> 自分を入れるのは反対。

今まで話をしてきた中で中山間地域の過疎化について話をしてきたところであるが、子育て支援が充実したから保育園があるからといって移住定住につながるかというとそうではない。子供がいてこちらに来るということは仕事とか就業を第一優先、働くところがないと生活できない。これは子育てだけでなく伊那市全体いろいろな課を巻き込んでの話になるので、この文面だけを入れると曖昧な表現になると思うので反対する。

<委員> 自分を入れてもよいと考える。子供の目線で考える審議会であるので、中山間地の伊那市の中で特に人口が減っている地域の移住定住といったときに仕事があっても恩恵を受けるものがなければ移住定住は死活問題になると思う、この文章があっても子育ての政策を進めるうえで縛られるものではないのではと思う。

<委員> 質問してよろしいか。委員さんは今どこにお住まいなのか。どういう立場でそういう発言をされたのか。

中心部の人にはこういった問題はありません。高遠、手良、長谷、新山、伊那の西部地区にとっ

て、子供が減っていくのはやむを得ないと考えるのか。私どもは危機的な状況にある中でどうしたら子供たちを増やし、人口を増やしていけるか考えたときに、急激的に減っている高遠、長谷、富県、手良いわゆる中山間地域の皆さんは子供が減っていくことは耐え難い。それがどういう風につながっていくかという、次には保育園だけでなく小学校につながる。地域の大事なコミュニティーの重要な観点に子供がいるのといないとでは大きな違いがあるので、必死になって嘆かわしい努力を続けている。そういう努力を委員であればしっかり見ていただきたい。ちゃんと話を聞きに行ってもらいたい。どういう立場で発言されているかわからないが、ちょっと認識が違うのではないか。

<委員> 自然保育が専門なので高遠第2第3保育園は非常に良い取り組みをされている。移住もされていて全国的に見ても稀な例で、大切にされていて良いと思う。そういった点で委員の追加提案は非常に価値があるのではないかと思います。

ただし、90分の会議の中で発言の仕方が良くないと思う。また、それぞれの立場で個人的にどこにお住まいかと持っていかれると誰も発言できなくなる。そこは注意していただきたい。

<委員> 私は保護者会の代表として来ており、高遠、長谷の会長さん正にその地域のお父さん、お母さんの意見を聞いてきているので、地域の保育園運営について生の声を聞いてきている。そういった意味で言葉に表されていますが、そういった意味では私も同感です。

ただし、人の意見を封殺するような話し合いをする場ではないと思う。議論を積重ねられ、ご説明していただいている努力もわかりますが、一つの意見に対して封殺されてしまうような発言はこの場では不適切と私は考える。

どこに住んでいるのか、そこに住んでいないから寄り添えないというように決めつけるような、他の委員の意見を完全否定するような発言はよろしくない。謝罪に値すべき発言と思われる。せつかくの良い意見がもったいないと思う。逆に聞かれたらどう思われますか。

<委員> どこに住んでいるのかについて撤回いたし、お詫びします。

<委員> 街部でも減少している状態。児童数減少地域とすればよいのでは。公立にこだわらず私立も含めて考えるべき。児童数減少地域でも、3号認定だけでなく保育を必要とする子供を受け入れられるような施設などで公立・私立を含め検討していくことが必要ではないか。

<委員> 子供を増やすには色んなところから開拓しなければ人口増へは繋がらない。子育て支援だけではなく他からの視点も重要で、中山間地に絞った表現で子育て支援が充実すればという曖昧な感じとするのは反対です。

<委員> 公立にこだわる必要はない。移住するにあたり保育が受けられる体制があればよいと考える。提案の修正が必要ではないか。

<委員> 前回アンケート結果の中でさすが伊那市だなという市民からの声もあるが、そういった意見がどういうところで公表され、評価されているのかわからない。基本的な量的な評価だけでなく質的な評価基準も用意したほうが良いのではないか。

<委員> P24 (5)に減少地域の子育て対策をするについて冒頭で課長が説明したところについて、これからの子供減少地域の問題について何回か話し合いを進めてきているが、基準が20名未満になったらという言い回しがあったが、前回の議論の中でこの問題についてマスコミ報道され20人未満に拘るものではないと出ていたのでこの文章になったのかなと理解しているがよろしいか。

<事務局> 前回、委員から意見が出されたが、人数を入れなければいけないのかという話があった。必ずしも入れなければならないものではないと返事をさせていただいた。今後の計画対策を考える上では、基本的には子供の教育や発育を必要な施策として考えていくことを基本的な骨格として考えて示させていただいた。

<委員> いままでの事務局案がこの文章に変わったということによいか。

<事務局> はい。

<委員> 先の委員の提案は第3章<基本方針1>ではなく、P25<基本方針3>地域活動の充実に入るのでは。

<委員> 方針と施策の両方にあったほうが良いと考えるが、施策を考えるうえで、より主軸・基本に近い部分にあるべき理念として提案をした。

<委員> P19 出産後、未満児を預けられる期間が短いと思う。次に生まれる子供のことも考えると、産後保育の期間延長を望む声はあるはず。要望がアンケートで見えてくるようにしてもらえると有難い。

<委員> P17 インターネットのことに対して施策の内容がないと思われる。課題としてあるので具体的な施策を載せていく必要がある。P25 家庭教育の推進とあるが、何をしたいのかがわからない。具体的にどうするのかをしなければ評価もできないのではないかと。

<事務局> 抽象的な内容があり変更を要する箇所がいくつかある。今後ワーキングチームで検討していく。

<委員> P21 ファミリーサポート、一時預かりについてあるが、資格がない方が行うことで事故につながる危険性があるため、資格についてどう考えるのか。

<事務局> 保育園の中では、基本的に有資格者を任用しているが、サポートとして資格のない方も採用している。ファミリーサポート事業については、協力会員に対し、年間を通じて講習・研修会を行う等体制を整えている。

<委員> 子供を預かるということは命を預かるということ。事故を防ぐということは有資格者による保育という伊那市の方針が必要ではないか。市の責任として明記すべきではないか。

<委員> 子育てサークルをやっている立場として、伊那市は支援センターもあり子育てしやすい状態になってきていると思う。ただ自主サークルも多く、そういったサークルへの支援特に金銭的な支援も大切と思う。

スクールソーシャルワーカーやカウンセラーについて数値がないがどうお考えか。

<事務局> 自主サークルについては検討していく。ソーシャルワーカーの部分については関係部署とも協議し検討していく。

<委員> 支援が必要な子が増えている。公立保育園だけでなく、保育を行う施設全般で取り組んでいる内容になるため、支援も各施設を視野に入れて考えてほしい。

<事務局> 資料説明 ④第4章 点検、評価の推進体制

<委員> 基本方針の評価の仕方が明確でない。伊那市の子育てのどこが素晴らしいのかという評価がどう生かされていくのかわからない。量的な評価だけではなく、質的な評価も取り入れたほうが良い。

3 今後のスケジュール

<事務局>

①パブリックコメント（方法・期間）1月予定

②次回の審議会 2月予定

③議会定例会報告 公表

<委員>意見なし

(2) その他

<委員> データとして見える形になっているが、伊那市として年少人口の減少に歯止めをかけるため、具体的な対策をどう考えているのか。

母親の就労率が上がっているが、伊那市は就労の活動にどう支援していくのかを盛り込んでいったほうが良い。

4. 閉 会 副会長